

◇ 学校運営方針の説明 (渡邊 岳 校長)

- 150周年の節目の年にあたり「学校要覧」をつくった。学校要覧は、来校する多くの方々に押切小の今をストレートに伝えるために活用していく。
- 今年度、合い言葉を「150年の歴史とともに新たなスタート」にした。明治7年に耕福学校として開設し、地域に支えながら多くの人材を輩出してきた学校の歴史と、今後につながる新しい教育の充実をめざす思いをこめている。
- 学校要覧の表紙は1年生を迎える会の写真を載せた。みんな笑顔で写っている。「今日が楽しく、また明日来たくなる押切小」を表した写真で、私たち教職員がめざす学校です。
- 今年度24名の教職員でスタートしている。教職員の異動も少なく、6学年中4学年の担任が持ち上がりということで、非常に落ち着いた学年のスタートができた。それに加えて、職員が3名増えている。支援員等が増え町教育委員会に感謝している。
- 児童数は、121名で、昨年より10名ほど増えている。
- 学校目標は、「いのち輝き かしこく やさしく たくましい 子どもの育成」を踏襲した。
- めざす子どもの姿は、生活に関わり「笑顔きらめく子ども」(ニコニコ)。学習に関わり「物事を自分事とし、本気で取り組む子ども」(ワクワク)。「進んで体をきたえ、元気な子ども」(イキイキ)。ニコニコ、ワクワク、イキイキは子どもと共有するためのキーワード。
- 学校経営の方針として、1. 学習指導要領や県教育委員会の方針・目標や重点をふまえ「新しい時代に対応した生きる力」の理念に基づいた経営を進める。2. 学校研究を中核に、学び合いによる学ぶ楽しさとわかる実感がもてる授業づくりを行い、確かな学力を育成する。3. 多様なかわりから絆づくりや居場所づくりを行い、自己有用感・自己肯定感を高める。4. 基本的な生活習慣を身に付け、主体的に運動に取り組む子どもを育てる。5. 保護者や地域、関係機関等と連携し、安全・安心・安定した開かれた特色ある学校づくりに努める。6. 教職員は「チーム Osikiri」として力を合わせ明るい職場づくりに努めると共に、効果的、効率的な教育課程を創造し、働き方改革を推進する。
- 経営方針を具現化するために取り組んだこととして、日課表の改定を実施した。週の火・木・金に朝学習の時間を設定し、教員も2名ずつついて、国語と算数を中心とした基礎基本の習熟や個に応じた学習を実施している。休み時間を5分延ばし、「よく遊び、よく学ぶ」ようにゆとりをもたせた。外遊びが増えた。6時間授業の日を原則火曜日の1日にし、子どもたちの放課後の時間と教員の授業力向上のための時間を確保した。
- 個別最適な学びと協働的な学びの推進。子どもの進度に合わせたゴールや方法の提供である。低学年でのペア学習、高学年でのグループ学習を日常化し、自分たちで考える学習を展開している。個の学びに対応するためにTT学習(複数の教員で指導)の推進でつまずきを見逃さない指導。ICT機器の利用による効果的・効率的な学習指導。家庭とも連携した家庭学習の推進に取り組んでいる。



- 縦割り活動の実施と学級の絆づくり。清掃、ランチルーム給食、子どもの思いを大切にしたい遊びでの活動。体験・宿泊学習での絆づくりをめざす。
- 健康な体づくりに関わっては、家庭と連携し生活リズムづくり（就寝時間を守る）や講師を招いた運動教室（水泳・器械運動・ダンス等）の実施を計画している。
- 三川ふるさと学習は今年度から取り組むことになる。生活科や総合的な学習で地域素材、人材を活かした単元学習に取り組む。自分たちで「日本一のおにぎりづくり」への挑戦や、修学旅行で訪れる仙台に学びながら、将来の三川の町づくりを考えるなど主体性を持たせて進めたい。昨年度からの地域ボランティア制度（ミシンの先生、農業体験の先生、読み聞かせ等）を今年度もさらに充実していきたい。

#### ◇ 学校運営方針への質問と意見（各委員から）

- ・地域の方によるボランティア協力に対する参加協力の申込状況はどうか。畑の協力などは年何回の協力になるのか。
- 読み聞かせなどは学期に1回。畑の仕事についてはその都度。ミシンの授業は、2～3回となっている。校外学習への協力も募集している。6月1日に募集のチラシを配布したばかりである。現在の状況では、昨年の協力者をいれて10数名の協力となっている。
- ・地域との連携となると、どうしても町内会単位と考えることになるが、以前は公民館の花壇整備や畑づくりなどもやっていた時期はあった。今は、祭と運動会、育成会の活動（資源回収）などに限られている。町内会で子どもを活かす活動がしづらくなっている。子どもの顔がわからなくなっている。
- ・昨年学校を訪れて授業を参観した時に、ペア学習やグループ学習の様子を見て大変よい取り組みであると感じた。他校での実施状況や、校長先生が替わっても継続されていくものなのかを知りたい。
- 他校では、授業の一部で取り組んだりしていることが多いようだ。本校のように全ての授業での実施は珍しい。押切小の授業スタイルとして確立し続けていけるようにしたい。また、生徒の実態に応じて今後、新たな授業スタイルが生まれるかもしれない。
- ・「算数が苦手」とあったが、原因は何かがわかって対応がかわってくる。原因の追及に努める教員集団であってほしい。

#### ◎ 学校運営方針については承認されました。

#### ◇ 熟議テーマ「地域（ふるさと）へ思いを寄せる子どもの育成」について

- ・今の子どもたちが、将来の地域を背負って創ってくれるという思いがあるからつながりを大切にしたい。
- ・コロナ禍で一時ではあるが関わりが薄れ、交流できるようになって以前のような関わりの大切さを感じた。
- ・地域で家族以外の大人や世代の違う人と接することは、コミュニケーションの取り方を身に付ける場、大人が積極的に機会をつくってやることが望まれる。
- ・地域とのつながりは、子どもに対するサポートである。子どもが自発的に企画し大人がサポートすることが大切。
- ・「地域」の取り上げ方の範囲はどこをさすのか。町内会なのか、押切地区なのか、三川町なのか、庄内なのか。
- ・「地域」の範囲は子どもがきめること。大人が範囲を指定してしまえばそれ以上の範囲は広がらない。視野を広めてあげたい。
- ・子どもたちに「地域」をどう捉えているか話しを聞くこともよい。地域座談会などで聞くこともできる。様々な取り上げ方ができる聞き方であればおもしろい。子どもたちの視野を広める聞き方にしたい方がよい。